



卒業式の入退場や校歌等の演奏は吹奏楽部の1・2年生が務めました。厳粛な式の中に、心温まる生演奏がありました。

## 令和6年3月1日（金）第76回卒業式挙行



### 岩井誠校長 式辞(抜粋)

東北を代表する作家の一人、岩手県花巻市出身の詩人で童話作家の宮沢賢治は、約百年前の一九二六年に書いた「農民芸術概論綱要」その序論においてこう述べています。「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」「世界全体が幸福になる」というのは、とても一筋縄ではいかないことであり、例えばウクライナや中東で長期に渡って続いている紛争を思えば、皆さんもその事は十分に理解していると思います。人はどうしても「自分さえよければ」という、誤った「自利」の思いに捉われてしまうものです。だからこそ「自分以外の誰か」の利益を考えると、つまり「他利」の考えが必要で、その事が、結果的に個々の幸せにつながる、

ということ、賢治は言いたかったのかも知れません。(中略)

皆さんは、本校において三年間「フェニックス・プラン」の中でSDGsの目標を踏まえながら、それぞれが様々なテーマで探究学習を深めることを通して、世界全体の幸せにつながることを考えてきたと言えます。また、世界全体の幸せを脅かしたものととして、二〇一九年以降、世界的な規模で広がった新型コロナウイルス感染症があります。私たちの生活に大きな影響を及ぼし、皆さんが学校生活を続ける上で 困難として立ち上がったことは、一度や二度ではありませんでした。その度に何度も立ち止まることを余儀なくされ、万策尽きて時には途方に暮れることもあったかもしれませんが、その時点でできることを工夫しながら、粘り強く継続して取り組むという貴重な経験をしました。このことは、コロナ禍を経て皆さんが手に入れたものの中でも、とりわけ大切なものだったと考えています。(中略)

皆さんは、常に新しく、混沌とした時代の先端に立っており、容易に答えの出ないもの、あるいは正解のないものに囲まれています。理想を高く掲げれば掲げるほど目の前の霧は深まるかも知れません。それでも、これまで仙台高校で培った力を遺憾なく発揮しながら、「一人ひとりの幸せにつながる世界全体の幸せ」とは何かを問い続け、悩み続けながらも、追い求める歩みを止めないでください。そして、その足跡をしっかりと残していってください。



クラス担任が体育館中央を通り、卒業生を先導し入場。



8名のクラス担任が卒業生ひとりひとりの名前を読み上げます。自信に満ちた潑刺とした大きな返事が体育館に響きました。写真は3年5組担任吉田恭介教諭。



クラス代表の生徒は壇上で岩井校長から卒業証書を受け取りました。写真は3年4組代表、松岡孝樹さん。



答辞は卒業生を代表して、前生徒会長の3年5組鈴木玲翔さんが務めました。答辞の中に「私たちは逆境を乗り越えた最強の世代。(中略)新たな風を社会に吹かせ、明るい未来を共に築いていきましょう」という前向きで、力強い言葉がありました。



式の最後は卒業生、教職員全員で校歌を斉唱しました。朝降っていた雨は上がり、会場には陽が差し込み、暖かな雰囲気になりました。



式後は各教室で保護者を交えた最後のホームルームが開かれ、新たな門出を祝いました。

## 第76回生同窓会入会式



2月29日(木)同窓会入会式が行われました。入会にあたり加藤吉男同窓会長(19回生、写真左)より歓迎の言葉と卒業を明日に控えた76回生へ激励のメッセージがありました。新会員を代表して3年6組相原百花さん(写真左下)が挨拶を述べ、会の終了後には、76回生新幹事代表と同窓生職員で記念撮影(写真右下)を行いました。



## 卒業生体験談



3月18日(月)1・2年生に向けた卒業生体験談が実施されました。パネルディスカッション形式で行われ、在校生は先輩の進路実現に向けた具体的な取り組み方や失敗談等、熱心に耳を傾けていました。

## 第24回基金留学

3月13日(水)～15日(金)にかけて福島県プリティッシュヒルズにおいて基金留学を実施しました。これは本校教育振興会からの経費の一部援助を受けながら、毎年20名程度、短期留学を派遣しているものです。参加した生徒は当初戸惑いながらも充実した研修となったようです。以下、引率をしたジョーンズ江里教諭のコメントです。▼英語を駆使することの積極性はもちろん、お互いにコミュニケーションをとり、新たな絆を作り出す20人のたくましさは圧巻で、飛躍的な成長を見せてくれました。



## 令和5年度末教職員異動(敬称略)

- 退職 村上良吾 佐々木秀男 吉田恭介 阿部誠大
- 転出 千葉薫充(仙台工業高へ) 野田利明(仙台工業高へ)  
佐藤雅浩(仙台青陵中等教育学校へ) 佐藤ゆかり(仙台商業高へ) 佐藤達哉(鶴谷特別支援学校へ) 石森美幸(仙台青陵中等教育学校へ) 移川恵理(仙台大志高へ)  
伊藤沙也香(宮城野中へ) 迫良生(マレーシア政府派遣教員) 佐藤岳(秋保中へ)
- 離任 阿部優子 前川裕子

## OBから後輩へのエール

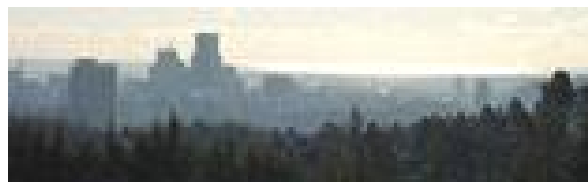
### 「望洋ノススメ」

教諭 羽生宏義(34回生)

NHK「プラタモリ」が終わりました。坂や地形がテーマでしたが、仙高も二の坂から見上げるたびに「よくこんな山の上に」と思うことがあります。県内の高校は城跡や戦後開発された丘陵地に置かれることが多く、仙高も仲ノ町創設以来幾度かの移転を重ねて、先輩各氏のご尽力により標高170mの国見の地に根を下しました。おそらく県内で3番目に高い場所にある高校です。北八校舎との標高差100m。道路舗装すらない往時、部活動のため北八からこの国見運動場まで走って練習していた諸氏の体力気力は想像に余るものがあります。



それから50年。私たちは今も、窓の外に水平線と仙台平野を望むことができます。北の七ツ森から遠くに金華山、煙雲たなびく製鋼所、仙台新港(仙高の方角に掘り込んであるため分かりづらい)。市街の高層建築と日辺あたりの田園。南東の仙台西丘陵には青葉城址(騎馬像も見える)、観覧車に宮教大。目を凝らせば、荒浜に打ち寄せる白波までもが確認できます。本校は、創立に際し仙台市を支える人材の育成を望まれ、その街を俯瞰しつつ日々学びを深めています。時には目を凝らして遠景を楽しみましょう。もし機会があれば、望遠鏡ドームからの絶景、夜景の美しさも魅力です。さて、最後に2題。①仙台高校の真東にある施設は何でしょうか。②標高170mから見える水平線までの距離は？



答え ①仙台新港 ②約50km



3月18日(月)1・2年生を対象とした進路別講話が行われました。学問分野系統別に法学や経済学、福祉、工学、医療等、12分科会に分かれ、県内外から講師をお招きし、大学で学ぶことの意義や職業への繋がり等を学びました。



3月19日(火)2年生を対象にした認知症サポーター養成講座が開かれました。講師を東北福祉会せんだんの里石川竜也様から認知症について正しく理解し、偏見を持たず「自分事」としてとらえる大切さを学びました。

〒 981-8502 仙台市青葉区国見 6-52-1 担当:主幹教諭 阿部頼人  
Tel 022-271-4471 URL <http://www.sendai-c.ed.jp/~sendaihs/>  
『仙高の風』バックナンバーはホームページからもご覧いただけます。